

大学出版

The Association of
Japanese University Presses

No.142
2025.5
春

【特集】ブックフェア探訪

新たな情報と潮流をつかむ

フランクフルトとロンドンの国際ブックフェア 高橋 学 1

出版社と読者を繋ぐアリーナ

アラブの国際ブックフェア 高橋理枝・早矢仕悠太 6

研究成果を広めるために

地域で育む「新大ブックフェア」 佐藤侑太郎・李香丹 11

本との出会い、読者とのつながり

京都ブックサミット2024 李悠音 16

図書館のさらなる充実を目指して

選書を支える「図書館のためのブックフェア」 橋本昂彦 18

【連載】何年経っても忘れられない、編集者の一冊《17》

尾島史賢 著

『法的思考のススメ——大人になる君に知ってもらいたいこと』

柳澤佳子 表2

大学出版部ニュース 23



尾島史賢著

『法的思考のススメ』——大人になる君
に知ってもらいたいこと』
柳澤佳子（関西大学出版部）



教科書として使用されることを見込み、紙面のあちこちに余白が設けられ、メモ書きができるように工夫されている。書き込みがしやすいよう、本の開きがよい「PUR製本」を初めて採用した。
印刷：尼崎印刷〔関西大学出版部・2021年／A5版・142頁・定価1,100円〕

民法改正により、二〇二二年四月から成年年齢が十八歳に引き下げられた。未成年と成年は何が違うのか。本書は、改正された法律や時代に即した事例を盛り込み、法律初学者の入門書として企画された。著者は法科大学院の教授で、現役弁護士でもある尾島先生。先生からの要望は、以前、編著者として制作した書籍と同様にQ&A方式で解説したい、とのこと。実はその本を、私は読んだことがある。法律に疎い私でも読みやすい内容だった。ただ、「もっとこうしたら……」と歯がゆい思いが募ったことを記憶していた。

企画が動き出し、私は本書の担当となった。募る思いをかたちにしよう、まずは先生と「思い描く完成形」を共有することから始めた。本の設計図ともいえるページ構成やフォーマットにこだわり、見出しのデザインから挿絵に至るまですべて作りこんだ。当時はコロナ禍の真只中で、先生と対面でお話しできるのは一度きり。初の顔合せで、暑苦しいほど作りこんだ資料をお見せし、目指す完成形を伝えた。しどろもどろな拙い私の説明でも、伝えなかったイメージを先生は鋭い感性ですぐに掴んでくださった。

その後も、矢継ぎ早にメールを先生へ送り、プレゼンを重ねた。その度に快く理解を示され、ページ構成に合わせた文字数の調整や膨大な加筆の提案（むしろ「要望」？）にも迅速に対応してくださった。例えば、最初の原稿では、コラムで出題された問題に解答がなかった。理由をお聞きすると、授業で使用する際に答えがあると使いにくいとのこと。なるほど……だが、読者全員が先生の授業に出席できるわけではない。問題を出されると、その答えが知りたいくなるものである。そこで、「私は先生の授業に出席できないので、ぜひヒントだけでも教えてください」とお願いした。結果、「思考のヒント」と題する八ページの充実した解説を、付録として加筆してくださった。

本書には、先生がこれから大人になる学生たちに伝えたいメッセージが、たくさん詰まっている。私にとっても思い入れの詰まった一冊となった。

新たな情報と潮流をつかむ——フランクフルトとロンドンの国際ブックフェア

高橋 学（アジア経済研究所 学術情報センター）

ご存じのとおりブックフェアは主として版權取引を目的とするビジネスの場である。しかし、ブックフェア期間中は会場内で多彩なセミナーが並行しておこなわれており、じつは出版業界の最新動向を把握するための貴重な情報収集の場にもなっているという一面は、意外と見落とされているかもしれない。とくに学術出版の分野では、残念ながら業界の行く末を左右する重要な決定は欧米主導で決まっていくことが多いため、主要国の国際ブックフェアは情報収集の観点からも非常に重要なイベントなのである。実際、筆者の肌感覚からしても、国際ブックフェアで議論された内容が、数年後に日本へ波及してくるケースが少なくない。

本稿は、筆者が参加した二〇一九年および二〇二二年のフランクフルト・ブックフェア、ならびに二〇二四年のロンドン・ブックフェアにおいて開催された学術出版セミナー

ーで取り上げられた主要トピックを、改めて振り返るものである。現在の学術出版の動向との関連を感じながらご一読いただきたい。

二〇一九年フランクフルト・ブックフェア

AIが執筆した学術書の登場

二〇一九年のフランクフルト・ブックフェアでとくに注目を集めたのは、AIが情報収集と執筆をおこなった世界初の学術書“Lithium-Ion Batteries: A Machine-Generated Summary of Current Research”の刊行であった。本書の著者としてクレジットされているのはBeta Writerというアルゴリズムである。版元の担当者は「本書が化学の学術書であることは偶然ではない。化学はAIがファクトベースで論文を整えやすい分野だからだ。次作では人文社会科学分野に挑戦したい」と述べていた。現在のところ、AIが

単独で直接執筆した人文社会科学分野の書籍はまだ登場していないようだが、技術の進展を考えれば時間の問題だろう。

二〇一九年当時、多くの出版社はAIを肯定的にとらえていたと思う。AIは膨大な論文や関連情報のなかから、必要度の高いものを迅速に選別できるため、著者は単純な文献検索の時間を短縮し、執筆により多くの時間を割くことができる。つまり、AIは著者を支援するツールとして認識されていた。AIが論文を書けるなら著者は不要になるのではないかという議論や、AIに代替されて編集者は職を失うのではないかといった危機感はそのほど感じられず、むしろ求められる仕事の質が変化することで「役割の変化」(role change)が起きるだろうという見通しがあった。

もっとも、無警戒にAIを受け入れていたわけではなく、「AIは公平でバイアスがないというのはまったくの間違ひである」という注意喚起もなされていた。「AIの基本動作はアルゴリズムに大きく依存しており、アルゴリズムとは人間が設計した計算手順に過ぎないのだから、バイアスは当然発生しうる。例えばアルゴリズムを設計する数学者が女性蔑視の激しい国に居住していればAIにジェンダーバイアスが発生する可能性は捨てきれない」というわけである。

AIは魔法のツールではないので、過度な期待は禁物だ

が、避けて通ることもできない。そのような文脈のなかで語られた“Start lightly, move wisely.”という言葉が、二〇一九年のフランクフルトでもっとも印象に残った。

二〇二二年フランクフルト・ブックフェア

出版市場概況——オーディオブックの台頭

フランクフルトでは初めての試みとして、欧州出版社連盟が欧州ブックマーケットに関する調査データおよび解析結果を公表した。それによれば二〇二一年の売上は大変好調で、直近十五年間で最大の伸び率を記録したという。その理由として「パンデミックで在宅時間が増え、読書の楽しみが再発見されたのではないか」という分析が示されていた。この報告が、ポスト・パンデミックのムードが色濃く漂うなかでなされていたことが非常に印象的だった。

さて、売上報告においてとくに注目されたのはオーディオブック市場の成長であった。オーディオブックは以前から盛り上がりを見せていたが、ついに売上比率がグラフ上で可視化されるほど数字が伸びていた(二・五%)。Spotifyがオーディオブックに関するセミナーを開催するなど、オーディオブック市場のさらなる活性化を予感させる雰囲気強く感じられた。

余談だが、ジャンル別の売上をみていくなかで目をひいたのは「児童書」の底堅さだった。セミナー登壇者によれ

ば「児童書とノンフィクションだけは依然として紙媒体が圧倒的に強い」とのこと。ノンフィクションはさておき、児童書はタブレットに入れて子どもにプレゼントするわけにもいかないので、紙の商品として安定的な需要があるのだろう。

アクセシビリティ対応——テキスト読み上げ

欧州アクセシビリティ法（以下EAA）の二〇二五年七月施行を控え、アクセシビリティ対応に関するセミナーが開催されていた。EAAはさまざまな障害をもつ人々が等しく情報にアクセスできる社会の実現を目指しているが、



フランクフルト・ブックフェアのセミナー風景（2022年）

出版社が扱うのは基本的にテキストコンテンツであるため、視覚障害への対応がおもな議題となった。イタリアの視覚障害者のための読書支援団体は「弱視または視覚障害者の半数以上が少なくとも年間一冊の本を読んでおり、読書

ニーズは高い」という調査結果を紹介したうえで、「出版社は（単なる義務の履行ではなく）市場が拡大するビジネスチャンスととらえてアクセシビリティ対応に当たるべき」と主張していた。

また、このセミナーには大手学術出版社でアクセシビリティ・ワーキンググループに所属する女性も登壇した。じつは彼女自身が全盲であり、読み上げ用のテキストの重要性を身をもって理解しているという。彼女の説明によれば、EAA対応に同業他社との敵対関係はなく、むしろ積極的に情報交換して進めたとのこと。AIテキストの制作については、当初は業務委託や自社制作を模索しようだったが、最終的には「著者自身にAIテキストを制作してもらうのがベスト」と判断したという。医歯薬理工系の書籍における難解な数式や化学式などは、著者以外に適切なAIテキストの制作が困難であることは、想像に難くないところである。

二〇二四年ロンドン・ブックフェア

AIの経済的側面

ロンドン・ブックフェアではAIに関するセミナーが多数開催されていたが、（二〇一九年のフランクフルトとは異なり）その多くはAIを経済的側面からとらえたときの問題点に焦点を当てていた。

AIはさまざまなコンテンツを作り出すことができるが、



ロンドン・ブックフェアの会場風景（2024年）

ングに利用され、その対価が支払われていないのであれば、これは大きな問題である。出版社側の主張は「AI開発企業は出版社に正当な対価を支払い、それを通じて著者にも利益が還元されるべきである」というものだった。出版社は自社コンテンツがどのように使用されたのかを把握しておく必要がある、著作権者は自らの作品が利用されたら報酬を得るべきであるというのは、きわめて当然の主張であるように思えた。

また、日本の著作権法がAIの学習方法であるテキスト・データ・マイニング（ウェブ上にある大量のテキストデ

ータから有益な情報を抽出すること）に対してとりわけ寛容にできていることも話題になっていた。作者の権利よりAIの学習を優先しているわけではないだろうが、EU法に比べて明らかに規制が少ない。どこかで調整が必要ではないかと思う。

AIと研究倫理

AIの進化は学術出版に大きな影響を与えているが、なかでも研究の健全性（Research Integrity）に対する影響は顕著である。例えば論文査読において、AIは剽窃検出に大きな力を発揮しているが、同時に研究不正のレベルを数段上に引き上げてもある。AIと研究倫理に関するセミナーでの結論は「結局テクノロジーと研究倫理は分けて考えなければならぬ」というものだった。どんなに技術が発達しても、人間が扱う以上は「最終的には教育しかない」ようである。

AIの活用領域

今後のAIの活用領域として挙げられていたなかで、とくに興味深かった二点を記しておきたい。一つ目は「専門知識をもたない一般読者に対し、AIを活用して研究成果を効果的に発信し、科学への信用を勝ち取る」という活用方法である。成功例として挙げられていたのはリチャード・ドーキンスの『利己的な遺伝子』だ。この書籍は、専門家

が平易な言葉で科学を解説することで、一般読者の科学への理解を深める役割を果たしたが、こうした高度なコミュニケーションができる研究者は限られる。そこで、今後はサイエンス・コミュニケーションがAIを駆使してこの役割を担うことが期待されているようだ。

二つ目は学術論文の査読システムである。人文社会科学系を含む学術研究の成果論文は、従来の伝統的な論文形式にとどまらず、動画やデータセットなどさまざまなフォーマットで提出されはじめている。こうした研究成果を適切に評価するためには、従来の査読システムを超えた新たな仕組みが必要になる。AIを駆使して論文を迅速かつ客観的に評価することへの期待も高まっているようだった。

まとめ

冒頭で述べたように、国際ブックフェアでは多彩なセミナーが開催されている。本稿はその一部をかいつまんで要

約したものに過ぎないが、開催年によって統一的なテーマ設定が存在しているような印象をもたれた向きも多いと思う。じつはこれには理由がある。

国際ブックフェアでは年ごとに（明示的に掲げられるわけではないが会場全体に感じられる）キーワードがあつて、多くのセミナーはそれを軸に開催されるのである。つまり二〇一九年フランクフルトと二〇二四年ロンドンでは「AI」が、二〇二二年フランクフルトでは「オーディオ」がそのキーワードだったのだ。筆者は参加できなかったが、二〇一八年は「メタデータ」と「ブロックチェーン」がキーワードであったと聞いている。

次のキーワードは果たして何になるのだろうか。AIが引き続き主役を担うのか、それとも新たな潮流が生まれてくるのか、引き続き注目していきたい。日々の業務をなんとか調整し、どうにかして国際ブックフェアに参加することが、筆者の仕事へのモチベーションになっている。

◎七つの海を股にかけ、会話の力で世界を変えた

啓蒙の海賊たち

あるいは実在した
リバタリアの物語

デヴィッド・グレーバー／酒井隆史 訳

啓蒙思想は貴族のサロンではなく海賊と女性たちの社会実験から生まれたのではないか。自由、国家、民主主義をめぐる常識を覆す。

四六判・定価2640円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋

www.iwanami.co.jp

出版社と読者を繋ぐアリーナ——アラブの国際ブックフェア

高橋理枝（アジア経済研究所 学術情報センター）

早矢仕悠太（アジア経済研究所 学術情報センター）

アラブの出版流通事情

アラブの国際ブックフェアといえば、カイロのそれである。二〇二五年は八〇か国から約六〇〇〇社が出展し、三〇〇万人以上が訪れた。エジプトに限らない国際ブックフェアへの熱は、アラブの出版社にとって、ブックフェアこそが生命線であるという一面を示している。この地域の国際ブックフェアをコーディネートするアラブ出版社連盟（APAA）によれば、ブックフェアでの売上げは出版社の年間売上げの五三%を占める。^①そこで本稿では、アラブの出版流通の中核にある国際ブックフェアのうち、二〇〇〇年代以降のシリア、モロッコ、クウェートの様子を紹介する。その前に、ブックフェアでの売上げに依存せざるを得ないアラブの出版流通事情について、APAAによる二〇一五年から二〇一九年までの調査をもとに触れておこう。^②

二〇一九年時点でアラブ全体の出版点数は、七万点を超えていた。新型コロナウイルスの流行によって紙書籍の売上げは落ち込んだが、その後の揺り戻しと電子書籍やオーディオブックの売上げが上昇傾向にあることを鑑みれば、コロナ禍以前の水準に戻りつつある。一方で出版社や書店が抱える構造的問題、すなわち、限られた販路や大型取次の不在という問題は残されたままである。この問題の一因には、アラブの出版社や書店の多くが、中小規模の個人経営によって支えられていることが挙げられる。結果として、書店にとっては需要にあわせた柔軟な在庫管理が難しくなり、出版社にとっては正確な需要を把握したうえで、利益を確保するだけの部数を市場に供給することが困難となっている。もちろん後述のように、政府機関や大学といった市場外の原理で活動する組織の堅実な役割も、アラブでは無視できない。しかし、その規模が民間分野と比べて限定的である

以上、この地域での出版流通の成功と先の構造的問題の解消は一体である。

ゆえに、アラブの国際ブックフェアは、需要と供給をつなげる貴重なチャンネルである。出版社にとっては販売と市場調査も兼ね、読者にとっては日頃目にしない書籍に触れる機会になる。大規模な資料調達の場として活用する図書館もある。次節以降、様々な当事者の期待と思惑が交りあうアラブ各都市の国際ブックフェアについて紹介しよう。

シリアの国際ブックフェア（二〇〇六年）

アサド政権下の国際ブックフェアは、ダマスカスのアサド図書館（当時。現シリア国立図書館）で開催されてきた。二〇〇六年の参加者リストからは、アラブの主要な出版拠点のレバノンとエジプト、地理的に近いヨルダンや湾岸諸国の出版社、アラブ連盟や各国政府機関の約三三〇社が集まったことがわかる。

アサド図書館が作成していた『販売書籍リスト』は、一九九四年に一冊だったものが二〇〇六年には三巻本となった。二〇〇二年頃からは検索機能付きCD-ROMも添付され、欲しい本のリスト作成も格段に容易になった。

リストを片手にお目当ての本を探す人の姿もちらほら見かけたが、当時のシリアのブックフェアは「お祭り」の印象が強い。筆者の知る一九九〇から二〇〇〇年代は会場が屋外で開催時期は夏、どう考えても夜がメインの設定であ

る。一五時頃から昼食をとって昼寝をし、日も暮れてから、やおら家族や友人と外に繰り出すダマスカスつ子たちにとって、ブックフェアは格好のお出かけ先である。会場で親に隠れてデートする若者たちの姿も珍しくはなかった。

それだけに二〇〇六年のブックフェアには隣国レバノンのヒズボラーとイスラエルの戦争が暗い影を落とした。レバノンからの避難民が流入し、重苦しい雰囲気包まれたこの夏は、ブックフェアというお祭りを楽しむ気持ちになれない人も多かったに違いない。来訪者数、書籍販売数ともに例年を下回ったという。しかしイスラエルの爆撃でベイルート―ダマスカス間の道路が寸断される中、八〇を超える出版社がレバノンから出展していた。

シリア・アラブ通信（SANA）のウェブサイトによると、コロナ禍で中止された二〇二〇年を除き、内戦中もブックフェアは継続されていたようだ。政権崩壊のわずか二カ月前、二〇二四年一〇月にもアサド図書館で四〇の出版社が参加してブックフェアが開催されたことが報じられている。二〇二五年二月現在、かつてのアサド図書館のウェブサイトは存在せず、国立図書館のウェブサイトも見当たらない。新政権の今後の方向性は未だ見通せないが、シリアの豊かな文化遺産と出版活動が継承され発展していくことを願わずにはいられない。



課外授業で来場する子供たち(モロッコの国際ブックフェア)

モロッコの国際ブック フェア(二〇一七年)

現在は首都ラバトで開催されているモロッコの国際ブックフェアは、筆者が訪問した二〇一七年当時は商業の中心地カサブランカで開催されていた。五十四国から七〇〇を超える出展があり、近隣のチュニジア、アルジェリアだけでなく、エジプト、レバノン、ヨルダン、シリアからも複数社が出展していた。またこの年の主賓として招かれた中部アフリカ諸国には会場の中央に美しいブースが設置され、関係強化に努める様子も窺えた。日本大使館を含め各国機関も出展しており、ブックフェアでは必ず見かけるサウジアラビアは、ここでも大掛かりな装飾を施したブースで人目を惹いていた。

フランスの植民地だったモロッコは、公用語のアラビア語だけでなく、フランス語での出版活動も盛んである。この年は約一二万タイトルのうち、七割弱がアラビア語、三割がフランス語であった。また二〇一一年に公用語として認められたベルベル(Amazighe)語の出版物も、

王立アマズイグ文化研究所などで刊行されていた。

モロッコは社会科学系の学術出版物も多く、こうした傾向はブックフェアの分野別構成(文学二五%、児童書一七%、社会科学一六%)にも見てとれたが、実際ブックフェアでは、ムハンマド五世大学、地方大学の出版部や王立研究所だけでなく、一般書店でもまとまった量の社会科学系出版物が陳列されていた。

期間中計六〇〇もの講演会などが開催され、来場者は三〇万人を超えた。地中海に面したハッサン二世モスク隣の展示場は、連日、人でごった返していた。特に平日は、課外授業なのか、先生に引率された子供たちの長い列をそこかしこで見かけた。うって変わって休日は、大人と家族連れが主な客層となる。会場内にはカフェも併設され、時間をかけてフェアを楽しむこともでき、またチップ稼ぎの若者たちに買った書籍を手押し車で運んでもらえるのも、なかなか便利なサービスであった。

ラバト開催となった二〇二三年からカサブランカでは児童青少年国際ブックフェアが開催されている。モロッコの出版活動の充実ぶりを示すものだろう。

クウェートの国際ブックフェア(二〇二四年)

今年もクウェート国際ブックフェアは、国際展示場を三ホール貸切って、十一月下旬から十一日間、三一か国から約四〇〇の出版社が出展し、約四〇万人の来訪者を迎えた。^④

この規模は他のアラブ諸国と比して、決して大きくない。一方でクウェート国際ブックフェアは、中規模だからこそ、学術書を求める専門家層と、一般読者層両方のニーズを拾い上げることができている。

クウェートの官民それぞれの出版社は四対六と、政府機関や大学をはじめとした公的資金を活用した出版の役割が伝統的に大きい。特に社会科学分野での出版と成果の普及には注力しており、同分野の国内出版物は、文学に次いで二番目に多い(二〇一九年時点)。

ブックフェアでは、クウェート大学や文教関連の省庁といった国内の公的機関だけでなく、参加国の官庁や大使館のブースが会場の一角を占めている。いずれも自機関発行の刊行物を展示していた。一方で近年、資料やデータのオープンアクセス志向に伴って、自機関で制作したサービスやコンテンツを紹介するブースも増えた。たとえば中央統計局は、毎日更新される統計ダッシュボードや、統計の数値を地図に落とし込んだ地理情報システム(GIS)の操

作を上演したり、国立図書館(NLK)は、二〇二〇年末に開設されたデジタルアーカイブ“Digital Memory of Kuwait”を紹介したりしていた。

またブースの担当者によれば、NLKにとって蔵書構築のための資料調達の機会でもあるという。というのも、クウェートでは書籍の出版や輸入について検閲による制限がある。近年緩和されつつあるが、大量の資料を輸入するコストは大きい。一つの会場で様々な国の出版物を手にとりて購入できる国際ブックフェアは、NLKの運営のためにも欠かせないイベントになっている。

クウェートでも、多くの人々にとってブックフェアはある種の「お祭り」である。会場内には軽食や土産物の露店、仮設の礼拝広間もあり、講演会やサイン会、ワークショップも企画されている。五〇もの絵本や児童書のブースのほか、科学教室や絵本の読み聞かせなど子供向けのプログラムもあって、家族連れも多く、期間中は七〇〇近い学校の課外授業先にもなった。ブックフェアへの高い関心は、会

家永第三次訴訟、新編日本史、
新しい歴史教科書、
沖縄戦集団自決の検定問題…。

日本史教科書検定三十五年

教科書調査官が回顧する

照沼康孝著 検定現場の実態や文科省の内実、検定関係文書の存在を初めて公にする。2420円

朝河貫一の時代と学問

書簡を通じた知の交流
葛野尚志・藤原秀之編 恩師や学友と交わった書簡から学問・思想の形成過程を分析。9900円

近代女子教育といけ花・茶の湯

日本・キリスト教主義・植民地
小林善帆著 いかなる関係を構築しつつ受容されたのか。その役割を学際的に迫る。14300円

渋沢栄一と鉄道の近代

恩田 陸著 2750円
国有化への考え、東北や朝鮮での取り組みなど、関わった事業を検討し、めざした鉄道構想に迫る。

平塚らいてうと現代

女性・戦争・平和を考える
米田佐代子著 戦後の平和運動を推進。独自の「女性の平和思想」と実践を再考する。2970円

日中関係史

田中史生編 様々な摩擦を抱えながらも安定的な関係を模索し続けてきた2000年の交流。3850円

20のテーマでよみとく日本建築史

古代寺院から現代のトイレまで

海野 聡編 東大建築学専攻海野研究室が、多様なテーマで建物と空間の魅力に迫る。2420円

吉川弘文館

東京文京区本郷7-2-8

電話03-3813-9151

価格は10%税込





イスラームの古典を揃えるブースはいつも賑わう(クウェートの国際ブックフェア)

場の外でも感じられる。期間中SNSではブックフェアが連日トレンド入りし、購入した書籍を並べて満足げに披露する様子が観察できた。クウェートでもブックフェアの熱は人々に広く共有されている。

おわりに

このようにアラブの国際ブックフェアは、主として大規模な書籍販売と文化的エンターテインメントの場を提供してきた。出版社よりも一般読者に焦点が当てられていることは、多くの政府関係機関や大使館が広報活動の場として出展している点にも窺える。数十万人超の来場者数もそれを裏付けているだろう。

先述のように、ブックフェアは普段は触れることのない本を手にとるチャンスである。もちろんブックフェアが全ての制約を取り払ってくれるわけではない。出版社の思惑もさまざまであり、売上げのために売れ筋の書籍しか持ちこまなかったり、長距離の運搬コストから広報のみに限ったりした結果、本国での品揃えと一致するわけではない。検閲のリスクも残っている。例えば、二〇一八年モロッコ

国際ブックフェアでは、西サハラをモロッコ領土に含めていない地図の載った書籍など二五点が禁じられた。

それでもアラブの国際ブックフェアは、アラビア語という共通言語をもつ強みを活かし、国境を越えた出版活動や知的営みを活性化する機能を持っていることは間違いない。

- (1) "APA chief: Great challenges facing publishing industry in Arab world," Gulf Times, 26th January 2022. <https://www.gulf-times.com/story/708659/apa-chief-great-challenges-facing-publishing-industry-in-arab-world> (accessed on 10th March 2025). 以下最終閲覧日同。
- (2) Azb, Khaled, 2022, "Publishing in the Arab World, 2015-2019," introduced by Mohammad Rashad, translated by Yamin Haj and Nourhan Tewfik, Cairo: Arab Publishers Association. https://lela-arabicliterature.com/wp-content/uploads/2023/09/Publishing-in-the-Arab-World_2015-2019.pdf
- (3) "Third Syrian Book Fair 2024 opened at al-Assad Library 8 October," Syrian Arab News Agency, 8th October 2024. <https://sana.sy/en/?p=339782>
- (4) "Kuwait International Book Fair concludes 47th session," KUNA, 1st December 2024. <https://www.kuna.net.kw/ArticleDetails.aspx?id=3206815&language=en>
- (5) <https://memoryofkuwait.nl.gov.kw/page/home>
- (6) "25 Books Banned at the 24th International Book Fair in Casablanca," by mwn, Morocco World News, 15th February 2018. <https://www.morocoworldnews.com/2018/02/22/18/25-books-banned-24th-international-book-fair-casablanca/>

研究成果を広めるために――地域で育む「新大ブックフェア」

佐藤侑太郎（新潟大学 経営戦略本部 U A 室）

李香丹（新潟大学 経営戦略本部 U A 室）

人文社会科学系の研究をどう後押しするか

新潟大学では、人文社会科学系・自然科学系・医歯学系など、およそ一五〇〇名の研究者が日々研究に励んでいる。新潟大学 U R A（University Research Administrator：以下 U R A）は、研究費獲得への助力や異分野連携の促進などをつうじて、新潟大学の研究を後押しする専門人材である。U R A の既存の取組みのうち、研究費の獲得や論文の投稿を促進する施策は、人文社会科学系の研究者にとって相対的に需要が低いことがわかっていた。そこで、人社系研究を後押しするために U R A に何ができるかを探るため、研究者に聞き取りをしたところ、学術書の出版に必要な情報や資金の不足が課題として浮かび上がった。こうした状況を踏まえ、二〇二二年から、学術書出版にまつわる障壁を軽減するための仕組みづくりをはじめた。本稿で紹介する

「新大ブックフェア」は、その取組の一環である（「新大」は新潟大学の略称で「シンダイ」と読む）。

まず、前年度に学術書を出版した研究者を表彰する「学術出版奨励賞」（以下、奨励賞）を開始した。学術書を出版した研究者を表彰することで、出版の功績をたたえるところに、学内でその成果をより広く認知してもらうことをねらった。奨励賞ではとくに初めての単著を重視した。これは、研究者への聞き取りにより、最初の一冊の出版経験が二冊目以降の出版の土台となり、研究者としての成長やキャリアに影響することがわかったためである。しかし、新潟大学には大学出版会がないため、出版経験のない研究者が書籍出版にかんする情報を身近から得ることはむずかしい。そこで、奨励賞を受賞した三名の研究者から、書籍出版にいたるまでの経験やその意義を研究者や学生に共有してもらおう機会として、オンライン座談会とポスター展示を



新潟県立図書館でのポスター展示の様子。

催した。

このポスター展示は、大学キャンパス内の二つの図書館とサテライトキャンパス「駅南キャンパスときめいと」の計三ヶ所で巡回展示した。このサテライトキャンパスは、メインキャンパスからは車で三〇分ほどの距離にあり、飲食店や商業施設、クリニックなどを含む複合施設の一角にある。新潟駅と連絡通路でつながっており利便性が高いことから、より多くの方にポスター展示を見てもらえるのではないかと期待した。当時の担当URAらは、ポスターだけでなく、受賞書籍そのものも展示したいと考えた。そこで、サテライトキャンパスと同じ建物内の階下にあったジュンク堂書店新潟店（以下、ジュンク堂書店）に書籍の展示をお願いできないかと思いついた。ジュンク堂書店と新潟大学とは特に接点があったわけではなかったものの、連携を打診したところ、店長が学術的な企画にご関心のある方であったこともあり、連携展示が実現した。改修事中であった店舗の入り口付近に、奨励賞受賞作や関連書籍など十冊程度を展示していただいた。学内の図書館に書籍を展示することで学内の関心を高めることはできていたが、

ジュンク堂書店での展示により学外の方々にも研究成果に触れてもらう機会を提供できたことが、次年度以降の取組みへの重要な敷石となった。

翌二〇二三年には、出版支援の取組みを拡充した。第一に、奨励賞の対象を単著だけでなく、本学の研究者が編著を務めた著作にも広げた。その結果、人文社会科学系に比べ、自然科学系の研究者もふくめ五名が受賞した。第二に、出版費用の一部を助成する「学術成果出版助成」も新たに開始した。第三に、出版支援の方策を練る手がかりを求めて北海道大学を訪ねたことが契機となり、同大学出版会の編集担当者を交えたセミナーも開催した。同大学の取組みを参考に、奨励賞受賞者と、書籍の出版を検討している若手研究者をふくむ計三名の登壇者から、学術書出版の過程や意義を共有してもらった。参加資格を制限せず現地参加・オンライン参加・録画公開を併用したことで、学外からの申込も多数ふくむ一〇〇件以上の申込があった。学術書出版のノウハウにたいするニーズがさまざまな組織に散在していることを認識した。

こうした一連の取組みを進めるなか、URAは新潟大学の研究を地域の方により広く知ってもらう必要があると感じていた。そこで、ポスターや書籍の展示の軸足を、一般の方に向けた研究活動の普及に移し、本をとおして地域の方に研究や研究者を身近に感じてもらうことを企図した。ポスターの内容は、他機関の広報誌を参考にして奨励賞受

知泉書館

倫理学講義 第一巻

山田晶著／小浜善信編 物語を通して学生たちを我知らず倫理の本質に導いた名講義を再現する 四六/496p/3500円

親和的感性に拠る 知と相生

愛と醜悪の間(あゐ)にて 宮本久雄 古代から現代の宗教と思想の多様な営みを分析、伝統的神概念を超えた世界を発見 四六/224p/2700円

キリスト教文化の かたち

その思想と行動様式を学ぼう 金子晴勇 キリスト教が人々の生活を高めてきた具体的経緯を知るための他に類のない必読書 四六/240p/2300円

ライブニッツの 最善世界説

【知泉学術叢書】
ラトー／酒井潔・長綱啓典監訳 善良な神が創った世界になぜ悪があるのか。『弁神論』を讀解 新書/640p/5400円

ハイデッガー＝リッカート 往復書簡 1912-1933

【知泉学術叢書】
デンカー編／渡辺和典訳 新カント派の研究と批判により『存在と時間』へと至る43通の書簡 新書/232p/3600円

北朝鮮の内部文書集

第1巻 ソ連軍政期-建国初期 木村光彦編訳 朝鮮戦争時に北朝鮮で米軍が捕獲した大量の内部文書から選択し、邦訳・編集する A5/528p/7200円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税別)
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

新潟市の読書の秋に、「研究」の色を添える

二〇二四年、より多くの方に新潟大学の研究を知ってもら

賞者の研究活動も普及できるものに刷新した。書籍展示は、当時のジュンク堂書店店長とも相談したところ、学術書ばかりだと特定の分野に造詣が深い来店者にしか関心をもってもらえないことが懸念された。そこで研究者には、これまで読んだ本で影響を受けたものや一般の方におすすめる本を教えてもらい、奨励賞受賞作・関連書籍とあわせて、「新大ブックフェア『新潟大学の〇〇学者をつくる本』」と題して展示することにした。一部の書籍の脇には、研究者の手書きコメントをあしらったポップも飾った。ジュンク堂書店の目立つ位置にある書棚二架に、三十余タイトルの書籍を展示いただいた。さらに、学内の生協書籍部にも書籍展示を打診し、店頭に設置したワゴンに書籍数冊とポップを展示いただいたことで、学内での展示も広げることができた。

らうために、さらに多くの場所で展示ができないかと考えた。そこで、大学図書館の担当者から新潟県立図書館（以下、県立図書館）を紹介してもらい展示への協力を打診したところ、快諾いただくことができた。さらなる可能性を求めて新潟市職員の方にも連携を打診したところ、新潟市立中央図書館の方にご紹介いただき、こちらも快諾いただけた。市立中央図書館の担当者から他の市立図書館にも参画を募っていただき、最終的に十三もの図書館が応じてくれた。

ポスターはこれまで学内でしか展示していなかったが、この年は学外での展示も試みた。県立図書館の担当者に打診すると、県立図書館でポスターを展示するには、例年のように数枚のポスターでは会場面積にくらべて少ないことが懸念された。そこで、この年の奨励賞受賞者二名にわえて、出版経験や研究内容をふまえて七名の研究者に協力を依頼した。経済・教育・社会学・考古学・文化学など人文社会科学系の研究者にくわえ、生物学や認知神経科学の

地理院地図

GSI Maps

「新大ブックフェア2024—本で身近に。大学の研究—」会場



会場の位置と展示の様子。図書館名は「図書館」の表記を割愛しているほか、新潟市立図書館の館名は「新潟市立」を割愛した。地図は国土地理院の地理院地図（電子国土Web）を用いた。

研究者にもご協力いただいた。研究推進の前線にたつ URA の見地から、展示の幅を拡大することができた。この年は新潟大学が創立七十五周年の節目を迎える年であったため、この機に乗じてより大きな展示を試行してみた、という背景もある。さらにこの年は、ジュンク堂書店店長のご厚意により、店舗脇のスペースでもポスターを展示する機会が得られ、ポスター数を増やしたことが功を奏して広いスペースを十分に活用できた。そのほか展示の制作にあたっては、ポスターは文字を減らして画像を載せるようにする・研究者におすすめの本を教えてもらうように「一般書・小説・コミックス・絵本等も幅広く含む」旨を明示するなど、幅広い方に興味をもってもらえるように工夫した。これらポスターと著作・おすすめ本の展示をあわせて「新大ブックフェア2024—本で身近に。大学の研究」と銘打って開催した。高校生向けのサイエンスコミュニケーションを意識したことから、「新潟県教育の日」関連イベントにも登録した。

二〇二四年十月から二〇二五年一月にかけて、学内外の計十九ヶ所で書籍やポスターを展示した。新潟市は人口約七十六万人の政令指定都市であり八つの行政区からなるが、このうち六区にわたって展示を展開できた。書籍を展示した会場では、多いところで一〇〇タイトル以上（新潟大学附属中央図書館）や七十余タイトル（ジュンク堂書店新潟店）を書棚に並べていただいたが、ほとんどの会場ではおおよ

そ数冊〜十冊ほどの規模であった。研究者の著書やおすめ本としてリストアップした書籍は合計一五九タイトルであったが、古い本や学術書も多くふくんでおり、個々の市立図書館には展示に足る冊数が蔵書されていなかった。市立中央図書館の担当者を中心に各館の蔵書を回してもらい、展示時期をずらすことで、多くの図書館で展示いただくことができた。ポスター展示は、十分なスペースを使用できた新潟大学附属中央図書館・ジュンク堂書店・県立図書館ではA0サイズのものを展示した。各市立図書館にはポスター・ポップなどの電子データを共有し、それぞれの広さやしつらえに応じて小さく印刷してつかってもらった。場所によってはポスターか書籍いずれかのみの展示であったり、規模が小さかったり期間が短かったりするが、展示内容や期間を各館で自由に設定してもらうことは、多くの会場で展示してもらうためには不可欠であった（具体的な期間や各会場の展示風景は新潟大学U R Aホームページを参照…<https://www.ura.niigata-u.ac.jp/2024/09/20/6021/>）。

書店・図書館とのネットワークに支えられて

学術的な展示は一般の方には興味をもってもらえないのではないかという企画側の不安に反し、書店・図書館の担当者の方に聞いたところ、一定数の来館者の方々には興味をもっていたただけようだ（鑑賞者アンケートの結果は別に適した媒体で発表したい）。

「新大ブックフェア」は、地域の書店・図書館のご厚意と工夫の上に、三年間をとおして内容・規模ともに着実に育ってきた。当初は学内の賞を受賞した研究者を紹介する小規模な展示であったものから、三年目には試行的に内容・規模ともに拡大し、本をとおして大学の研究の一端をより多くの方に見てもらえるようになったように思う。出版は単なる「情報伝達装置」ではなく、「コミュニケーションを媒介し、コミュニケーションを生成・維持していく働きをもつもの」（長谷川一『出版と知のメディア論——エディタースhipの歴史と再生』みすず書房、二〇〇三年）である。この点において今回のブックフェアは、学術書出版が有するコミュニケーションの媒介機能を、地域をふくめて拡張する取組みともいえるかもしれない。県立図書館のSNSでご投稿いただいたとおり、今回の「新大×書店×図書館」が一体となった取組みは、「地域の学びを支えたい！という共通の気持ちで、地域の書店と図書館が連携」してくださった賜物である。ご多忙のなかご協力いただいたみなさまには、感謝の念を抱くとともに、頭が下がる思いである。人社系研究の現場には課題がなお山積している。たとえば前述の研究者への聞き取りでは、書籍を執筆するための時間を確保することや、出版社の編集者との接点をもつことが困難であることもわかっている。人社系研究の支援を引き続き模索しながら、大学・書店・図書館・地域の方々にとってよりよい私たちの「ブックフェア」を探求したい。

本との出会い、読者とのつながり

京都ブックサミット2024

李悠音

(京都大学学術出版会)

「京都ブックサミット」は、二〇二三年から始まった、本の魅力を広く発信し、読書文化の振興を目的とした一大イベントです。京都の書店が中心となり、多彩な企画のもと、出版社、書店、作家、読者が一堂に会する貴重な機会となっています。規模を拡大した二年目の「京都ブックサミット2024」は、十一月二十三日と二十四日の二日間にわたり、「関西最大級の本のお祭り」として開催されました。京都・下京区の梅小路公園七条入口広場では「本の謝恩価格販売＆親子ブックフェスタ」が催され、京都大学学術出版会は、創立三十五周年を迎えるにあたり、より多くの方々に小会を知っていただくチャンスとなることを願い、出展しました。

出展準備と当日の様子

「京都ブックサミット2024」への出展に向け、事前に入念な準備を行いました。まず、選書は来場者の年齢層や関心に合わせたジャンルを選定しました。なかでも、会場である梅小路公園の近くには「京都水族館」があり、さらにイベ

ントテーマが「親子ブックフェスタ」であったことから、小会の人気シリーズ『新・動物記』をイチオシとして選びました。また、教養書として長く親しまれてきた『学術選書』の中から、特に子ども教育に関する本を中心に絞り揃えました。次に、広報活動として、読者や来場者に幅広く情報を届けるため、公式SNS(X・Instagram)やメルマガを活用し、出展予定の書籍情報や特別価格での販売告知、リクエスト募集などを実施しました。

イベント当日は、二十四社の出版社がブースを出展し、六十七社が出品した約三万冊の書籍が特別価格で販売され、時折にわか雨に見舞われたにもかかわらず、家族連れを中心に多くの来場者で賑わいました。来場者の中心がファミリー層であることを考慮し、小会のブースはいつもより目を惹く五色の風船で装飾しました。そして、ブースの周囲には、明るく軽快な色合いでデザインした出版会の名前を掲示し、割引書籍の上にはPOPカードを設置。視覚的にも楽しめる空間を演出し、学術出版社の堅いイメージを和らげ、親しみやすさを感じてもらえるよう工夫しました。その結果、風船に惹かれて遠くから駆け寄る子どもたちに連れられて親も自然とブースに引き寄せられ、本を手にとってページをめくる姿が見られました。また、ブックサミットの公式SNSに朝から会場の様子をリアルタイムで発信し続けてもらいました。特に印象的だったのは、SNSでの出展情報を見た『西洋古典叢書』シリーズの愛読者の方が、事前にリストアップしていた

存在の四次元

意識の生物學理論

ルドゥー 練達の脳神経科学者が展開する新理論。生命を4つの次元で捉え、意識という伝統的難題に挑む。高橋 洋訳 ¥3960

遥かなる山に向かって

日系アメリカ人二世たちの第二次世界大戦

ブラウン 強制収容、裁判、欧州出征——4人の「ニセイ」を軸に描く、クリストファー賞受賞の傑作実録。森内 薫訳 ¥5280

終わらぬ歴史 ホロコースト

ストーン 物語としての陳腐化に抗い最新研究を統合して歴史を叙述、現在を考察する歴史学。大山 晶訳 武井彩佳解説 ¥4840

ブック・ウォーズ

デジタル革命と本の未来

トンプソン デジタルは本を壊したか？書籍産業を変えた30年を、出版社経営に携わる社会学者が詳解。久保美代子訳 ¥5940

サフラジェットの病院

第一次大戦下、女性の地位向上のための戦い

ムーア 参政権運動家たち女性だけで営まれ「ロンドン最高の病院」と称賛された陸軍病院の実像を描く。勝田さよ訳 ¥5280

現実化しえないもの

存在論の政治に向けて

アガンベン 哲学は現実化しえない可能性である。真の政治はこの可能性から離れない。存在論の系譜学。上村忠男訳 ¥5720

グローバル社会の哲学

押村 高 国際政治思想の「現状維持バイアス」を乗り越える、国際正義論のバイオニアによる問題提起と研究の未来図。¥4950

東京文京本郷

2丁目 20-7

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)

http://www.ms2.co.jp

みすず書房

振り返り

書籍をまとめ買いしてくださったこと。そして、リクエスト募集に応募してくれた京都大学の学生さんが来場し、SNSのDMでリクエストしていた本を熱心に吟味して、実際に購入してくれたことでした。

東京国際ブックフェア以降、長らく一般向けのイベントに出展する機会がなかったため、今回の参加はとても貴重な経験となりました。特に強く感じたのは、来場者層の変化です。従来の高年齢層に加え、若年層の来場者が多く見受けられ、学術書に対する関心の広がりを感じました。また、児童書エリアと学術書エリアが共存することで、それぞれのターゲット層を惹きつけ、幅広い年齢層に楽しんでいただけのイベントとなったと感じました。さらに、SNSで情報を得て来場された方々が多く、小会の書籍を新たに知っていただけたことも嬉しい収穫でした。今回の展示を通じて、多くの方々に

二〇二五年に向けて

学術書の魅力が伝わり、今後書店で書籍を手にとっていただけることを期待しています。

「京都ブックサミット2024」への出展を通じて、学術書が多く読者に受け入れられることを実感し、来場者層の多様化と学術への関心の高さを感じました。二〇二五年は、より幅広い分野の書籍を取り揃え、さらに多くの方々に学術書の深さや面白さを伝えることを目指します。また、プースのデザインや展示方法にも工夫を凝らし、学術書の魅力を直感的に感じていただける空間を提供します。加えて、SNSやウェブサイトを通じて出展前から積極的に情報発信を行い、より多くの方に関心を持っていただけるよう努めます。京都という文化の発信地において、学術的な知識を広め、より多くの読者との交流を深めることができることを心より楽しみにしています。

図書館のさらなる充実を目指して——選書を支える「図書館のためのブックフェア」

橋本昂彦（図書館流通センター 仕入部）

「図書館のためのブックフェア」はその名の通り、図書館の方が自館に蔵書する本を選書するための展示会である。

新刊・既刊問わず様々な本が展示され、直接手に取って内容を確認することができる。普段なかなか手に取って選書することが難しい書籍なども展示されているので司書の方々からも好評を頂いている。二〇二五年現在、無書店自治体は全国で二七％にも上る。書店が存在していたとしてもベストセラー本やコミックなどがメインで図書館必備のレファレンス本や図鑑の類などが陳列されていない場合も多い。そうした自治体では図書館も現物選定が困難であるため、現物選定の場としての「図書館のためのブックフェア」は大きな存在意義がある。本稿では、ブックフェアの運営担当の一人である筆者から見たブックフェアの運営趣旨や課題を概説する。

TRCとは

「図書館のためのブックフェア」は、株式会社図書館流通センター（TRC）と日本出版販売株式会社（日販）の共催で行われている。開催時期は四月～七月（春のブックフェア）と九月～十二月（秋のブックフェア）の二期開催である。春のブックフェアでは学校図書館が、秋のブックフェアでは公共図書館がメインターゲットになっている。これにはそれぞれの予算消化の傾向が関係しており、年度の前半で図書を注文する学校図書館と、年度を通して概ねコンスタントに注文する公共図書館で、それぞれのスタイルに合わせて選定の場を活用していただくという考えのもとと始動された。そのため正式名称も「子どもの力 図書館のためのブックフェア」と「図書館のためのブックフェア」とそれぞれ異なっている。

そもそもTRCとは何をしている企業なのか、簡単に説明しておこう。一九七九年の創業以来、図書館専門企業として図書館で発生する様々な業務を総合支援する取り組みを続けてきた。装備付き図書の販売、図書館運営受託、

MARC（機械可読目録Machine-Readable Cataloging：図書館専用の書誌情報）作成を事業の柱として、多くの図書館と取引をしている。近年では電子図書館の推進や、図書除菌機、移動図書館車などの新規商材の販売ほか、新しい事業も次々に展開している（それぞれの事業の詳細については当社HPをご覧ください）。

ブックフェアは、前述の事業の柱の中の「図書販売」の一環として展開されている。TRCは『週刊新刊全点案内』というカタログを中心に各種選書ツールを図書館に提供しており、図書館におすすめの書籍を取り揃え販売している。当社はリアル店舗を持たずカタログのみで本を販売している全国的にも稀なタイプの書店であり、約七万三〇〇〇タイトル（約一六〇万冊）の本を在庫して図書館からの注文

に込めている。

しかしカタログ上で見ることができるのは書影や書名、価格などの文字情報のみであり、それだけで購入を判断するのが困難な本もある。そうした課題を解決するため、現物選定のための販売サービスも展開している。「図書館のためのブックフェア」はその一環である。

「図書館のためのブックフェア」とは

会場ではさまざまなジャンルやテーマの書籍が紹介されている。展示方式は春のブックフェアと秋のブックフェアで大きく異なっている。ここでもメインターゲットの違いが関係しており、学校図書館がメインターゲットである春のブックフェアでは、当社が発行している『学校図書館のためのブックカタログ』に準拠した展示順となっている。同カタログは弊社が学校図書館に配布している最大のカatalogであり、こちらをメインに選書をしてくださっている学校図書館も多いため、展示会場もそれに基づいた配置に

（新刊）

僕らはとびきり素敵 だった *How Beautiful We Were*

Imbolo Mbue 著 / 波佐間逸博訳 「権力と腐敗をめぐる勧善懲悪の物語を、欲望機械の緻密な探求に昇華」。アフリカの現実を鋭く描き尽くした、切実で濃密な物語。3300円

それでも、彼女は学校へ

有井晴香 著 エチオピア村落の教育とジェンダー。「抑圧」の日常から学校への多様な選択の束。切実な「リスキリング」を追う。4400円

ジャワ王宮舞踊

岡部政美 著 無形文化遺産の伝承。ジョクジャカルタ王宮舞踊の発展と踊り手たちの回顧の語り。大衆化と新たな伝承を探る。4400円

ヨルダン社会経済の 変容

白杵悠著 移民・難民受け入れ国家の所得・労働・女性参加。地域を横軸に、センサスや世帯調査を分析。変容の動態を描く。3850円

自閉スペクトラム症者の のまなざし

合崎京子 著 言語人類学からみた当事者の社会的コミュニケーション。本人、調査者、医療従事者それぞれの相互作用と変化を詳述。5500円

天津市民の食生活 社会主義制度下の歴史人類学

劉征宇 著 伝統を継承する街に導入された新国家の政策。70年にわたる食事事情の変化を、詳細な調査で分析した画期的業績。4400円

風響社

〒114-0014 東京都北区田端 4-14-9
〒03-3828-9249（定価は税込）
URL: <http://www.fukyo.co.jp>

なっている。そのため春のブックフェアは『学校図書館のためのブックカタログ』の現物選定の場、という位置付けの展示会でもある。学校図書館、すなわち学校生徒が読む本がメインで展示されており、児童書や易しめの一般書などが並んでいる。また、企画展示コーナーも、生徒が食いつきそうなテーマや学校現場で問題となっているネタを取り上げて特集を組んでいる。直近では、学校図書館の廃棄問題に関連して、図書の買い替えを促すための企画特集や国語教科書の改訂に伴う改訂情報についての特集などを展開した。

一方、秋のブックフェアでは公共図書館がターゲットになる。公共図書館では日本十進分類法（NDC）に基づいて配架される図書館がほとんどであるため、展示会場もNDCに基づいている。以前は「歴史・紀行に関する本」「サイエンス・テクノロジーに関する本」など本のテーマに即したジャンルごとに区分して展示していたが、日頃NDCに親しんだ司書の方々にとっては、NDC順に並んでいた方がどこに何の本があるか当たりがつけやすい、というところもあり現在ではNDC順がスタンダードになっている。秋のブックフェアでも『図書館のためのブックフェア注目図書カタログ』というカタログを作成している。こちらは展示図書の中でも注目の図書のみを掲載しており、展示図書のイメージをつかんでいただくなど、会場に来ることのできないお客様向けの選書ツールとして配布している。

公共図書館がメインとなるため、展示図書は一般書だけでなく普段目にする機会のない高額図書や専門書なども展示している。また公共図書館向けにもニーズの高いと思われる話題に基づいた企画展示をするなど、様々な趣向を凝らしている。さらに秋のブックフェアでは出版社ごとに特設ブースを設けており、それぞれの出版社がお勧めしたい商品が展示される。二〇二四年は三十社ほどご出展いただいたが、出版社ごとに本を見る機会はなかなか無いこともあり、賑わいを見せていた。また会場では各出版社の担当から直接おすすめ本の紹介を聞くことができるため図書館司書からの注目度も高かった。

春・秋問わず、会場は自由に選書が可能である。会場スタッフから一通りの会場説明が済んだのちは自由行動である。順路などもないため、気になるジャンルのみ選書していただいてもよし、端から端まで順に見ていただくもよし。満足したところで再び会場スタッフに声をかけていただき、選書した銘柄リストを出力してリストをお持ち帰りいただく。ブックフェアはあくまで「選書の間」であるため注文は後日持ち帰ってからとしていただいている。即注文とはならないことで、お客さまの心理的負担もなく安心して選書していただいているのである。

本の展示会ではあるものの、図書館運営にかかわる商材などいくつか展示している。例えば電子図書館や図書除菌機などは、お客様に実際に操作していただくことで、導



東京都すみだ会場の会場風景

入の参考にしていただいた。こうした商材もなかなか実際に触る機会が少ないので貴重な場面として活用している。他にも運営の困りごとを解決するための手立てや、ちょっとした豆知識を紹介するセミナーを行う会場もある。直近のブックフェアでは「選書力アップと棚作り・イベント構築について話そう」「電子図書館サービス活用促進！最新の事例紹介」などが好評であった。このように多彩な情報を提供する場として「図書館のためのブックフェア」は進化を遂げてきた。

しかし二〇一九年からのコロナ禍によって運営形態も大きく変化した。コロナ禍が最も深刻だった時期には、多くの図書館が閉館対応となり、ブックフェアも開催中止を余儀なくされた。その後少しずつ社会が元に戻っていきに従って、ブックフェアも感染対策を講じた上で開催できることになった。感染対策とともに運営方式も大きく見直されることになり、中でも特に大きかったのが選書方式の見直しである。従来は、展示されてい

る書籍に対応した短冊を用意して、選書する本の短冊をお客さまに抜き取っていただく方式をとっていたが、コロナ禍を契機にこの方式を見直し、ハンディ端末による選書へと切り替えわった。これにより選書やリストの出力効率が高めにアップし、運営もスムーズになった。現在ではこうした感染症対策の多くは解除されたが、選書方式も含め、運営効率化につながった施策は現在も継続して行われている。

今後の課題と展望

試行錯誤を続けながら継続してきたブックフェアではあるが、課題も多い。ブックフェアでは現在約一万一〇〇〇点以上の本を展示している。圧巻の風景ではあるものの、この点数を一冊ずつじっくり選書して回るには一日では難しい。蔵書の参考にしたいいジャンルだけをつまみ食いするか、ざっと会場を回って気に入った本だけを手に取るか、そういった選書スタイルのお客さまが多い。もう少し展示冊数を絞って少数精鋭の展示にした方がお客さまも有益な選書ができるはずである。また、上述の通り会場では本以外の様々なコンテンツも展示しているが、多くのコンテンツが乱立した結果、統一性がなくなりそれぞれの魅力がぼやけてしまっている節もある。これについても、もう少しメリハリをつけた見せ方ができないか検討が必要だろう。

集客の面でも課題はある。全国各地で開催しているブッ

クフェアだがすべての都道府県で開催できるわけではない。場所によっては近隣の会場まで何時間とかかってしまうエリアもある。また、図書館側のイベントやシフトの都合上、スケジュールの面で来場が厳しい場合もある。そういった物理的な制約を解消するために、ブックフェアのオンライン化も検討されている。日販とポプラ社とTRCの共同出資で誕生したToshoToshoはその一環である。学校図書館を重点ターゲットとして、オンライン上でブックフェア展示銘柄やその他学校図書館おすすめの銘柄を掲載するWEB選書サイトである。試し読みコンテンツも掲載しており、ブックフェアでの現物選定と同等の選書体験を実現するためにコンテンツの拡充に邁進している。二〇二四年にグラインドオープンし、現在登録校数は四五〇〇校を超えている。先述の物理的課題を克服するための一つの手立てとして効果を発揮している。とはいえブックフェアのオンライン化はまだ遠い道のりである。しかし実現への第一歩を踏み出したところであり、今後歩みを絶やさず継続していきたい。

ここまでブックフェアの現状と課題について述べてきた。「図書館のための」と称してここまで二十年以上続けてきた取り組みだが、果たして本当に図書館のためになっているのか、というのは常に考えさせられる。時代のニーズは日々推移していく。二十年前当たり前だったことが今では無用の長物になっているということは大いにあり得る。流

行や情勢が目まぐるしく変わっていく予測困難な時代に、旧来のスタイルを抜本的に見直すことも必要である。図書館が求めているものは何か。本を買ってもらうにはどうしたらいいのか。ニーズにこたえるためには、既成の概念にとらわれず新しいことに挑戦していかなばならない。しかしそれは簡単なことではない。

TRCの仕事はリアル書店とは違い、お客さまの顔を見ることができない。そのため、どうしてもお客さまのニーズを把握しづらいし、自分の選書や企画が本当に効果的だったのか、結果を実感しづらい。筆者も実際に会場に視察に赴き、来場された図書館の方とお話して、お客様の生の意見からヒントを得ようと図っているが、有益な情報はそう簡単に転がっていない。それでも自分なりに疑問に思うところは変えようとしていたり、情報収集につとめたりするなど必死にもがいている。それがどのような結果を結ぶかどうかはわからないが、あきらめず精進するのみである。

とある会場での出来事である。会場を気の向くまま歩きまわっていると、「この企画面白い」と盛り上がりつつある二人組のお客さまが目に入った。それは私が考案した企画の一つで、展示されている本を手にとって嬉々とした様子だった。一人でも多くの方が足を運びたいと思うようなそして「来てよかった」と思っていただけのようなブックフェアにするべく、今後も全力で取り組んでいきたいと思う。

大学出版部ニュース

表示価格は税込です

大学出版部協会・活動報告

一月一日(金) 一四時〇〇分

第七回 営業部会 開催※

* 部会前：丸善雄松堂電子書籍セミ

ナー

一月二四日(金) 一五時三〇分

第七回 理事会 開催※

二月一四日(金) 一三時〇〇分

第八回 営業部会 開催※

* 部会前：EBSCO電子書籍セミナー

二月一四日(金) 一五時三〇分

第八回 理事会 開催※

於：クロスウェーブ梅田

二月二七日(木) 一四時〇〇分

第五回 編集部会 開催※

三月七日(金) 一四時〇〇分

第九回 営業部会 開催

三月一四日(金) 一五時三〇分

第九回 理事会 開催※

(※理事会・部会はZOOMでの開催)

北海道大学出版会

▼陳勝著『当事者が語る「貧困とはなに

か」―参加型貧困調査の可能性』(A5判・二三二頁・六三八〇円) 日本で実施

した参加型貧困調査の記録とその分析。当事者たちがグループディスカッション

を行い、「貧困」をどのように理解しているのか、何に心配し困っているのか、

それにどう対応したのかを議論する。

▼山際明利著『張載思想研究―宋明理学の中の「太虚」説』(A5判・三二八頁・

一一〇〇〇円)「万世の為に太平を開く」という言葉を通じて日本でも親しまれ、

北宋五子の一人に数えられる張載。思想的な読みで再解釈することを通じて

「朱子学の先駆者」という固定観念から解き放ち、その独自性および限界、思想

史上の影響力を解明する。

▼小島康敬校注『乳井貢 志学幼弁』(A5判・四一〇頁・一九八〇〇円) 江

戸中期弘前藩で宝暦改革を担った乳井貢。その主著『志学幼弁』を翻刻・校訂し、

詳細な注を付す。素行、徂徠に共鳴して実学の観点から朱子学を批判し、秀吉、

赤穂四十七士も糾弾して独自の思想世界を展開する。

弘前大学出版会

▼大谷伸治・小幡史朗・篠塚明彦・瀧本

壽史編著『教科書と一緒に読む 海峽地域の歴史―津軽・下北・道南』(A5判・

一八〇頁・一九八〇円)。好評を博した『教科書と一緒に読む 津軽の歴史』に

続く第2弾。二〇二一年に世界遺産登録の「北海道・北東北の縄文遺跡群」の存在が示すように、津軽・下北・道南の各

地域は「しよっぱい川」とも呼ばれた津軽海峽を介して深く関わりあいながら歴史を刻み、共通の文化圏を形成してきた。

本書では、これらの地域を「海峽地域」として一体的にとらえ、その歴史的な歩みを地域間の相互関係に着目しながら描き出すことを試みる。前著と同様に先

史・古代から近現代まで学校で使用されている歴史教科書との対応を意識して題材を選んだ。学校現場で歴史を教えている先生方をはじめ、この地域の歴史に関心を持つ多くの方々に手に取っていただ

きたい。



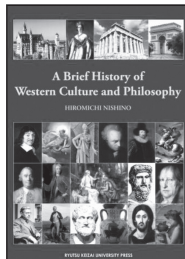
東北大学出版会

▼岩谷信著『マックス・シェーラーの倫理思想―倫理的人格の生成と存在』の視座から」(A5判・三七〇頁・六三八〇円)シェーラーの「倫理学的人格主義」の中核であり、自己自身が「間主體的な実存」であると了得する人間の「自己集中」の過程として説かれている(倫理的人格の生成と存在)論の根底には、(人間の尊厳は奈辺に存するか)という問いが潜む。それに答える過程でシェーラーの企てた、ニヒリズムを秘めた西欧近代市民社会(ゲゼルシャフ)の「相対化」や「実存的・絶対的」な「愛と応答愛」の「倫理」としての称揚が、前世紀でのレヴィナスやコフート等の思想形成の直接的な基盤であることを詳細に論じる。

▼東北大学東北アジア研究センター編『東北アジア学術読本9 東北アジアの自然と文化 2』(四六判・一九八頁・二七五〇円)二〇一八年刊行の『東北アジアの自然と文化』の続編。東北大学東北アジア研究センターの二〇周年を記念し、同センター発行の「ニューズレター」と「うしとら」から選りすぐりの学術エッセーを再録する。

流通経済大学出版会

▼西野博道著『A Brief History of Western Culture and Philosophy』(A5判・二三四頁・一九八〇円)本書はヨーロッパ文明が発祥からいかに変容し、淘汰され、世界思想を牽引するに至る一大文明に成長していったのか、その過程を紐解く英文書籍(一般書)である。



▼植村秀樹著『平和国家の戦争論―今こそクラウゼヴィッツ「戦争論」を読む』(A5判・三六〇頁・四四〇〇円)戦後日本の平和主義を支えていたものは何か。これからも平和国家であり続けるためには戦争論が必要である。



聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・古川寿子・河合優子・重安智子・関口明子・井口厚子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭をを目指すために』(B5判・一七七頁・一七六〇円)今まで幼児教育に携わるために学んできたものが教諭・保育士・保育教諭の到達目標に照らして身につけたかを確認できるように、いじめ・食育・特別支援・幼保小連携等幅広く載せ、自らの課題を自覚し、不足している知識・技能を補い定着できるようにまとめた一冊。

▼聖徳大学特別支援教育研究室編『一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなで進める特別支援改訂3版』(A5判・二六七頁・一七六〇円)初学者のための特別支援教育本。コンパクトなハンディサイズに、全障害について、子どもの理解と指導・支援に必要な基礎的知識を盛り込んだ一冊。

▼聖徳大学児童学部児童学科編『新しい児童学への招待』(B5判・一〇三頁・一三五九円)幼児教育・保育・文化・心理の教授陣四〇名が協働制作した入門書。薄手の冊子に児童学の様々な素材が凝縮され学びやすい。

慶應義塾大学出版会

▼徳永豊編著『重症心身障害の子どもの実態把握ガイド―受止め・対応リスト』とその「評価シート」の活用（A5判・八四頁・一四三〇円）重症心身障害児の実態把握に必要な方法を解説。著者が開発した「受止め・対応リスト」と「評価シート」をダウンロードして利用可能。

▼波多野澄雄・宮城大蔵編著『日本外交をどう考えるか―日米安保・歴史問題から沖縄まで』（四六判・二二二頁・二六四〇円）日米安保、歴史問題、領土問題、経済外交など、日本が直面する問題を理解するヒントを若い読者に提供する。

▼メリッサ・S・カーニー著／鹿田昌美訳『なぜ子どもの将来に両親が重要なのか―家族格差の経済学』（四六判・二八八頁・三五二〇円）この四〇年間でひとり親世帯が激増し、二人親世帯との経済格差が拡大。その原因と対策を考える。

▼井奥成彦編著『動物たちの江戸時代』（四六判・二七四頁・二六四〇円）江戸時代、人々はどのように動物たちと接し、可愛がり、共存しようとしていたのか？犬、馬、鷹・鶴、獺、鯨などとの関係を古文書読みに長けた専門家たちが解説。

専修大学出版局

▼中村吉明著『日本の電機産業の創造的破壊』（四六判・二八八頁・三三三〇円）総合電機メーカーの過去から現在までの動向を、それらの経営戦略を含めて詳細にみたうえで、復活の道筋を考える。



▼小川都著『エンパワメントを引き出す学習者参加型日本語教育―留学生の自律学習を育てる授業実践』（A5判・二三六頁・三八五〇円）学部留学生が抱く大学における日本語教育に対する考えや要望、自身の日本語能力に対する認識調査結果から留学生が求め必要とする日本語教育を考える。それを基に自律的学習能力を高めるための学習者参加型／ワークシopp型学習による授業例を取り上げ、実践的な指導方法について検討する。



玉川大学出版部

▼デイヴィッド・ルイス著／川端有子訳『絵本の「言葉と絵」を読む』（A5判・三六八頁・四六二〇円）エコロジーの概念や機能文法の用語などを用いて「言葉」と「絵」の相互作用を読み解く一冊。アンソニー・ブラウン、ジョン・バーニング、アルバート・グスマンなど、20世紀後半に高く評価された作家による絵本を様々な視点から分析し、絵本という自由で可能性に満ちた表現形式について考える。

▼キンチヨイ・ラム著／八木栞伸浩日本語版監修／くまがいじゅん訳『移動する民―ノマドのくらし』（A4変判・七二頁・三七四〇円）定住地を持たず移動しながら生活する民、ノマド。極北のシベリア、サハラ砂漠など、様々な環境で伝統的な生活を続ける7つのノマド社会を、美しい絵とともに紹介する。余計なものを持たず、環境に調和したくらしを営む生活スタイルには、持続可能な社会を目指すためのヒントがまつている。



中央大学出版部

- ▼マーク・デルナウア／奥田安弘編著『欧米諸国から見た日本法』（A5判・二九四頁・三八五〇円）欧米人が日本法を研究する意義を解明するため、ドイツ人・オーストラリア人・日本人が珠玉の論文を寄稿した類を見ない書。
- ▼M・ザックス著／土屋武・畑尻剛監訳『ドイツ憲法訴訟法』（A5判・三八六頁・五〇六〇円）わが国・台湾・ドイツの比較法研究のエキスパートの手による刑事比較法の意義、人質司法、刑法総論の重要問題を分析する珠玉の論文集。
- ▼三船毅編著『政治空間における諸問題』（A5判・二四〇頁・二九七〇円）世論調査・政治意識と政治行動などにかかわる重要な問題を取り上げて研究し、社会への提案・変化の可能性・含意などに言及する。
- ▼佐久間英俊・木立真直編著『グローバル競争の進展と流通・都市の変容』（A5判・一八四頁・二四二〇円）グローバル競争が進展するもとで流通や都市の機能も変化している。消費、生産、労働、取引、政策、情報化の影響などを歴史や政府の政策を交えて多角的に考察する。

東京大学出版会

- ▼シリーズ「イスラームからつなぐ」（黒木英充編集代表／全8巻／各巻四一八〇円・六〇五〇円）完結
- イスラームの歴史と現在のなかに窺われる「つながり」（コネクティビティ）と「信頼」をキーワードに、現代世界を蝕む排除と分断に対抗する知を紡ぎ出す壮大なプロジェクト。一四〇〇年にわたる多様な集団や文化を包摂してきたイスラーム文明の考察を通じて、「つながりづくり」と信頼構築のための知恵と術を抽出し、戦略知へと鍛え上げる。
- 『1 イスラーム信頼学へのいざない』（黒木英充・後藤絵美編）
- 『2 貨幣・所有・市場のモビリティ』（長岡慎介編）
- 『3 翻訳される信頼』（野田仁編）
- 『4 移民・難民のコネクティビティ』（黒木英充編）
- 『5 権力とネットワーク』（近藤信彰編）
- 『6 思想と戦略』（山根聡編）
- 『7 紛争地域における信頼のゆくえ』（石井正子編）
- 『8 デジタル人文学が映し出す名士たち』（熊倉和歌子編）

東京電機大学出版局

- ▼類家正稔著『基礎 界面とコロイドの化学』（A5判・二二〇頁・二六〇〇円）界面化学およびコロイド化学をはじめて学ぶ読者へ向けた入門書。界面化学を身近に感じてもらえるように家庭でもできる実験も用意し、より理解が深まるよう工夫。また、直感的な理解を促すため図表や写真を豊富に掲載。加えて、化学特有の数式の証明や導出過程を丁寧に解説。修学に必要な数学公式や物理定数表を巻末に付した。▼初年次教育テキスト編集委員会編『フレッシュマンセミナーテキスト 第3版 ―大学新入生のための学び方ワークブック』（B5判・一七八頁・二二〇〇円）待望の第3版。新入生が有意義な大学生活を送るために、生活と学習両面からのステップアップを図るためのテキスト。レポート実例や例題トピック等を現状に合わせて改訂。また生成AIに関する知識と注意事項を追加した。見開き2ページで解説されているので、分かりやすく使いやすい。さらに、採用いただいた教員に向けて講義用補助資料も提供している。大好評のテキスト。

法政大学出版局

▼根津朝彦ほか訳『ベン・ブラッドリー自伝―『ワシントン・ポスト』を率いた編集主幹』（A5判・五五六頁・四九五〇円）ペンタゴン文書報道やウオーターゲート事件で知られる『ワシントン・ポスト』紙の名編集主幹ブラッドリーの自伝。アメリカ・ジャーナリズムの真骨頂。

▼萩原里香著『カラーゴ―オペラ黎明期の舞台上演責任者』（A5判・二八六頁・五五〇〇円）オペラ黎明期に舞台芸術の制作すべてを裏方で統括し、音楽劇成立に決定的に貢献した知られざる役職「カラーゴ」に初めて焦点をあてる。

▼C・シャリエ著／佐藤香織訳『無限者の痕跡―エマニュエル・レヴィナスとヘブライの源泉』（四六判・四六二頁・六三八〇円）レヴィナスと神学およびハスィディズムの関係を論じ、ギリシアの哲学とユダヤの哲学の対立を解きほぐす。

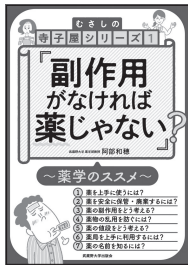
▼島田大輔著『中国専門記者の日中関係史―太田宇之助を中心に』（A5判・三四六頁・五三九〇円）平等な日中関係を訴えていた影響力ある新聞記者はなぜ戦争協力を決意したか。その足跡を詳細に追ひ、両国の近現代史を考察する。

武蔵野大学出版会

▼ステイブリン・パチエラー他著（ヘカンファ・ツリー・ヴィレッジ叢書1）『世俗仏教の倫理と死の意味の哲学』（A5判・二二六頁・二二〇〇円）仏教の著述家であり、活動家のステイブリン・パチエラーと、彼の「世俗仏教論」を本格的、批判的に紹介する初めての日本語の著作。



▼阿部和穂著『副作用がなければ薬じゃない』（A5判・二〇四頁・一七六〇円）「いま薬が不足しているのはなぜ？」「薬を飲み忘れたらどうする？」「なぜ『お薬手帳』が必要？」など、すぐに役立つ薬の雑学を薬学部の教授がやさしく解説！



武蔵野美術大学出版局

▼福井政弘・菅木綿子著『新版 パッケージデザインを学ぶ―基礎知識から実践まで』（B5変型・一七六頁・三六三〇円）歴史、基本形態などの基礎から、現在流通している商品を「商品名」「コピー」など一八の構成要素に分類し一〇〇点を解析。また商品企画から発売後の検証までの実践的なプロセス、陳列・販売される場所により変容するデザインについてネット流通までを言及。最終章は初版を刷新、国内外の環境問題、技術革新を踏まえ次世代のパッケージを考える。「映え」の解析書でもある。

▼志田陽子編『あたらしい表現活動と法第二版』（A5判・三三二頁・三四一〇円）法によってできることや支えられているものの知識をもつことが、自由な表現活動を通して多様な他者や社会と、より豊かな関係を築く基盤となる。「表現の自由」とは何かを問いつつ、知的財産法、著作権法を中心に表現者としてまた享受者として知っておくべき表現活動にかかわる法やルールを学ぶ入門書。豊富な判例を「example」で、身近な問題を「column」で考察する。

早稲田大学出版部

▼山本英子著『グラスランの経済学―18世紀における主観価値理論の先駆者―』(A5判・二四八頁・五五〇〇円) フランス絶対王政期の経済学者グラスラン。先駆的な主観価値理論に基づき、新しい市場社会を描いた。本邦で初めてその経済思想を追究した本格的な研究。

▼千葉美奈著『青少年のリプロダクティブ・ヘルスと性教育―タイの事例に学ぶ―』(A5判・二五〇頁・五五〇〇円) 青少年の早期妊娠やHIV感染が増加する中、青少年のリプロダクティブ・ヘルス保護のために重要なのが包括的性教育(CSE)の取組である。質の高いCSEを実現したタイの事例を通じ、効果的な性教育普及のために必要な方策を考察。

▼濱本卓司著『内藤多仲の構造診断書を読む―時代を先取りした振動計測技術―』(B5判・三五六頁・一〇七八〇円) 「耐震設計の父」「塔博士」として知られる早大教授・内藤多仲。彼が戦後まもない時期から約二〇年間にわたって手がけた、建築物、鉄塔・インフラ施設・タンク等の工作物の構造健全性や耐震診断を評価した「診断カルテ」一〇三件を紹介。

関東学院大学出版会

▼バプテスト研究プロジェクト編『バプテストの歴史と思想研究⑧』(A5判・一三八頁・二〇九〇円) 関東学院大学キリスト教と文化研究所) が発表するバプテスト研究論文集の最新号。第一章では、熊野清樹が東西バプテストの合同および日本基督教団への加盟を経験し、牧師として戦時中の困難を経て敗戦の時を迎えた時期について紹介する。第二章では、スマイスとの分裂前後に書かれたヘルウイスの三つの書簡の分析により、その神学的思想を明らかにする。第三章では『小石川バプテスト教会史 第一編』に見られる日本のバプテスト史の側面を解き明かす。第四章は日本のバプテストに関する二冊の新作を紹介するものである。

【目次】第一章 熊野清樹を通して見る日本のバプテスト(5) / 第二章 ヘルウイスの神学的思想形成における三つの書簡の位置付け / 第三章 『小石川バプテスト教会史 第一編』に見る同教会の立ち位置(2) / 第四章 新刊紹介 宣教師ポートに関連して

名古屋大学出版会

▼谷徹也著『豊臣政権の統治構造』(A5判・六二四頁・八八〇〇円) 近世化を導いた豊臣の支配は、単なる「専制」ではなかった。実務を担う奉行らと自律的な社会集団の交渉に注目、政権像を鮮やかに更新する。

▼丸川知雄著『中国の産業政策―主導権獲得への模索』(A5判・四〇〇頁・五九四〇円) 国際競争力や技術力に産業政策が与えた真の貢献とは。鉄鋼から半導体・EVまで重要産業を網羅、全体像と限界を描く決定版。

▼ロバート・A・ジェイコブズ著／竹本真希子・川口悠子・梅原季哉・佐藤温子訳『グローバル・ヒバクシャ』(A5判・三六〇頁・五九四〇円) 広島・長崎だけではなく、世界的な被曝の全体像へ――。科学と政治の観点から鋭く問い直す。

▼鈴木富雄・阿部恵子編『よくわかる医療面接と模擬患者』[第2版] (A5判・二一四頁・二二〇〇円) 医療面接の基本知識と模擬患者の練習方法を第一線の執筆者が解説。好評のシナリオ集も大幅に増補した、今日から練習に使える一冊。

名古屋外国語大学出版会

- ▼名古屋外国語大学編『ザ・ワールド・ウィズ・アスー世界はわたしたちとともに』（四六判・一一五頁・一三二〇円）
世界の二〇言語から集められた、今を生きる人々へ贈る名言・格言集。それぞれの言語・文化の専門家が、背景にある豊かで多様な文化を解説。世界を知る専門家たちのエッセイ、論考も収録。
- ▼上田功監修／新居明子・金子理紗・杉山真央著『Listening Tips』（B5判・六七頁・一二一〇円）リスニングが苦手な人も、この本の20のポイントを学べば、英語がはつきり聞こえてくる！
- ▼佐原秋生・大岩昌子著『食材と調理の世界地図』（四六判・二三七頁・二二〇〇円）人間は火を使う以前からすでに、手に入れた食材を調理して食べていた。肉、野菜、穀物、飲みもの……世界の食材と調理について、豊かなその「地図」を分類・整理しまとめた、読んでも楽しいガイド。



京都大学学術出版会

- ▼村角愛佳著『なぜ「同意に基づく武力行使」が正当化されるのか―理論と実行からの探求』（A5判・三四六頁・四九五〇円）国際法学の一大難問である「同意による正当化」に対し、「人間的視座」から新たな理論を提示する。「国家対国家」では零れ落ちるその理論的陥穽、これまでの矛盾した議論を根本から塗り替える画期をなす一書。

- ▼飯島真里子著『コナコヒーのグローバル・ヒストリー―太平洋空間の重層的移動史』（A5判・三四四頁・三五二〇円）高品質で名高いハワイのコナコヒー。二〇〇年の生産史・ブランド史には、植民地的搾取、変化し続ける人種主義、世界市場といった人・モノ・概念・技術の移動が幾筋も絡み合う。コナを移動史の結節点として捉える新たな叙述。

- ▼榮福真穂著『スピノザの観念説』（A5判・二八〇頁・四一八〇円）デカルトから継承され、哲学史の中でも難解で知られるスピノザの観念説。その多様な側面に注目しながら、スピノザ独自の構想として従来の認識論的な枠組みにとどまらない「観念の実在論」を提唱する。

大阪大学出版会

- ▼道上史絵著『技能実習生と日本語のリアル―これからの外国人労働者受け入れ制度と日本語教育のために』（A5判・三五六頁・六〇五〇円）労働者の日本語能力向上の必要性が叫ばれながら、形骸化した状態で維持されてきた技能実習制度。ベトナム出身の技能実習生への量的質的調査から、現実在即した日本語教育施策の必要性和受け入れのあり方について提言する。

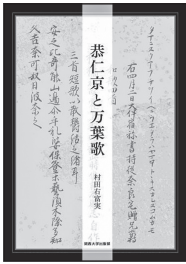
- ▼渥美公秀・関嘉寛・山口洋典編著『集落（復興）―中越地震と限界集落の物語』（四六判・三六八頁・二七五〇円）新潟県中越地震で被災した集落で取り組んできた研究活動から、集落の〈復興〉を追う。復興でもなく、まちづくりでもなく、日常の暮らしを取り戻し、つくりだした二〇年。

- ▼織田和明著『九鬼周造の人間学―破綻と再建』（A5判・二九二頁・六一六〇円）九鬼周造の哲学を人間学的に再解釈。大日本帝国の軌跡と重なる九鬼の半生をたどり、破綻と再建の視点から捉え直す。

関西大学出版部

▼吉川和希著『近世ベトナムの地方支配と北部山地』（A5判・三八八頁・五一七〇円）近年、インドシナ半島北部山地の現地住民の独特な行動原理や生存戦略が、注目を浴びている。本書は最新の研究動向を踏まえ、未公刊の新史料を分析。これまで研究がほぼ皆無だった、十八、十九世紀のベトナム北部山地における王朝権力の支配の変遷や、現地住民の動向を描き出した画期的な一冊。

▼村田右富実著『恭仁京と万葉歌』（A5判上製・三二〇頁・三四一〇円）奈良時代には平城京、恭仁京、紫香楽宮、難波宮を転々とした時期があった。本書は緻密な表現分析と歴史学の成果により、度重なる遷都がもたらした万葉歌の諸相を明らかにする。これまで恭仁京時代の万葉歌を正面から論じた書はほとんどない。今後の万葉研究において必読の書。



関西学院大学出版会

▼竹中均著『柳宗悦と民藝―物と場所の思考』（A5判・一六〇頁・四二九〇円）東日本大震災やコロナ禍がもたらした〈日常〉への問いや、世界共通の課題としての環境問題への注目など、今後の諸課題へのヒントが民藝の中にあることを、社会学的視点で論じる。

▼關谷武司・吉田夏帆・江寄那留穂編著『国際情報分析―実社会で本当に求められる実践的探究法』（A5判・一九二頁・二五三〇円）国際情報分析では、情報を収集・分析・評価し、自分で判断する高次思考力を養成する。調べ学習でもディベートでもない、真実に迫る探究。これからの知識基盤社会で必須の実践的分析技法である。

▼柳屋孝安著『企業内福利厚生をめぐる労働法上の課題―日独比較法研究』（A5判・三七四頁・七四八〇円）労働法の分野で先行研究の少ない企業内福利厚生をテーマに、その実態分析による立法規整の課題を抽出し、学説・判例の動向を踏まえつつ個別問題の法的処理のあり方を検討した日独比較労働法研究。

九州大学出版会

▼小林孝吉著『内村鑑三「再臨の風景」―臨りつつあるイエスと生命の水の河』（A5判・二三四頁・五九四〇円）内村のキリスト教思想の変遷を辿ること、彼の信仰と福音の本質を解明し、万人救済論としての生命の風景を顕かにする。

▼小黒康正著『「第三帝国」以前の「第三の国」―ドイツと日本におけるネオ・ヨアキム主義』（A5判・二九〇頁・三九六〇円）三位一体説に由来する前近代的な宗教思想は、どう近代的な社会思想として成立・展開し、なぜナチスのプロパガンダへと変容したのか。

▼辻大地著『前近代イスラーム社会と同性愛』―男性同士の性愛関係からみた社会通念の形成過程（A5判・三二四頁・五二八〇円）人々の認識はどのようにして「ソドミーから同性愛へ」至ったのか。アラビア語史料から掘り起こす。

▼松永典子・郭俊海・柳瀬千恵美共編『日本社会と継承語教育―多文化・多言語環境に育つ子どもたち』（A5判・二二六頁・三九六〇円）在留外国人が三五〇万人を超える日本で、継承語教育の実践を通して多文化共生の道を探る。

創栄図書印刷(株)	〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766 TEL 075-255-2288 https://www.soei-pb.co.jp
大同印刷(株)	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20 TEL 0952-71-8550 https://www.daidou-jp.com
ダイニック(株)	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル TEL 03-5402-1811 https://www.dynic.co.jp
(株) 太平印刷社	〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16 TEL 03-3474-2821 http://www.p-taihei.co.jp
(株) 太 洋 社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1 TEL 058-324-2111 https://www.p-taiyosha.co.jp
(株) 竹 尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6 TEL 03-3292-3617 https://www.takeo.co.jp
(株)東京出版サービスセンター	〒110-0016 東京都台東区台東1-33-6 セントオフィス秋葉原401 TEL 03-5688-5801 https://www.c-enter.com/
(株)とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F TEL 03-5148-7200 https://www.toko-ai.com
(株) トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7 TEL 075-411-8288 https://www.talligent.jp
(株) 日新広告社	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F TEL 03-3263-9431 http://www.nissinkoukokusya.com
(株)日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 TEL 03-6256-7528 https://www.nikkei.co.jp
日本宣伝販売(株)	〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278 TEL 048-620-1021 http://www.nihon-senden.jp
(株) 博 報 堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F TEL 03-6441-6711 https://www.hakuhodo.co.jp
藤原印刷(株)	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5 TEL 03-3291-0191 https://www.fujiwara-i.com
(株) 平 文 社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7 TEL 03-3944-0301 http://www.heibun.co.jp
(株) 毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 TEL 03-3212-3340 https://www.mainichi.co.jp
誠 製 本 (株)	〒175-0081 東京都板橋区新河岸3-13-1 TEL 03-4212-2735 http://www.makoto-seihon.com
(株) 遊 文 舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31 TEL 06-6304-9325 http://www.yubun.co.jp
(株)読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 TEL 03-3242-1111 https://www.yomiuri.co.jp

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。

一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

- (株) 朝 日 新 聞 社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7749 <https://www.asahi.com>
- 重 細 重 印 刷 (株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154
TEL 026-243-4858 <http://www.asia-p.co.jp>
- (株) ア ベ ル 社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル301
TEL 03-6256-8133 <https://www.abel-sha.com>
- 尼 崎 印 刷 (株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
TEL 06-6494-1122 <http://www.ainai.co.jp>
- 英文校正エナゴ 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F クリムゾンインタラクティブジャパン
<https://www.enago.jp/>
- (株) A L E 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階
TEL 03-5652-8627 <http://www.adv-logi-eng.co.jp>
- 王 子 製 紙 (株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
TEL 03-3563-7072 <https://www.ojipaper.co.jp>
- (株) 加 藤 文 明 社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE
TEL 03-3261-8281 <http://www.bunmeisha.co.jp>
- 城 島 印 刷 (株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
TEL 092-531-7102 <https://www.kijima-p.co.jp>
- (株) 糸 川 印 刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7
TEL 03-3943-9811 <http://www.kumekawa.jp>
- (株) 広済堂ネクスト 〒105-0023 東京都港区芝浦1-2-3 シーバンスS館13F
TEL 03-3453-0556 <https://www.kosaido-next.co.jp/>
- 港北メディアサービス(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
TEL 03-5466-2201 <http://www.kohoku.co.jp>
- ㈱コングレゴラブルコミュニケーションズ 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング5階
TEL 03-3510-3750 <https://www.congre-gc.co.jp>
- 三 美 印 刷 (株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里6-28-1
TEL 03-6807-8377 <https://www.sanbi.co.jp>
- 三 立 工 芸 (株) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
TEL 03-3261-5171 <https://www.sanritsu-net.co.jp>
- 三 和 印 刷 (株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1
TEL 026-285-2300 <http://www.sanwaprinting.jp>
- 信 濃 印 刷 (株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
TEL 03-3237-3601 <http://www.shinano-insatsu.co.jp>
- (株) 渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7
TEL 026-244-7185 <http://www.bunsenkaku.co.jp>
- (株) 眞 興 社 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2
TEL 03-3462-1181 <https://www.shinkousha.co.jp>
- 新 日 本 印 刷 (株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342
TEL 03-3269-3611 <https://www.sinnihon.net>
- (株) 精 興 社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9
TEL 03-3293-3021 <https://www.seikosha-p.co.jp>
-



美学入門

ベンス・ナナイ著 武田宙也訳
四六判並製 210 頁 定価 2,860 円

これまで重視されてきた美的判断ではなく、対象にふれる際の人間の「注意」と「経験」に着目し、異文化における美的経験の理解も視野に入れた、平易かつ大胆、斬新な、美学へのいざない。
ISBN:978-4-409-03135-3



クライストと公共圏の時代

―世論・革命・デモクラシー―

西尾宇広著
A5判上製 390 頁 定価 7,480 円

ナポレオン戦争の衝撃に劇震する世紀転換期、文学市場が拡大する時代に、あえて大衆に追従しなかった作家は何を残そうとしたのか。クライストが描くデモクラシーの両義性と知られざる革命的文脈を掘り起こす。ISBN:978-4-409-24168-4



関西の隠れキリシタン発見

―茨木・山間部の信仰と遺物を追って―

マルタン・ノゲラ・ラモス／平岡隆二編
四六判並製 254 頁 定価 2,860 円

パリで発見された宣教師プレシの書簡。それは関西の隠れキリシタンの存在を伝える驚くべきものであった。宣教師や「山のキリシタン」の子孫たちの生活とはどうだったのか。関西茨木キリシタンの全体像を明らかにする。ISBN:978-4-409-52096-3



地域研究の境界

―キーワードで読み解く現在地―

田浪亜央江／斎藤祥平／金栄錦編
四六判並製 320 頁 定価 3,960 円

さまざまな地域への関心と興味のベクトルを、互いに交差するキーワードに落とし込み、それぞれの地域に関わる研究者の問題関心の現在地を示す論考を収録。ISBN:978-4-409-24170-7
広島市立大学国際学部叢書 14



戦後ドイツと知識人

―アドルノ、ハーバーマス、エンツェンスベルガー―

橋本紘樹著
四六判上製 324 頁 定価 4,950 円

戦後民主主義を模索するドイツを舞台に、アドルノ、ゲーレン、ハーバーマス、エンツェンスベルガーといった思想家・文学者たちは、どのような現実と格闘していたのか。アドルノを起点に照らされる、知識人たちの理論と実践。ISBN:978-4-409-03136-0



シェリング政治哲学研究序説

―反政治の黙示録を書く者―

中村徳仁著
四六判上製 350 頁 定価 4,950 円

ドイツ観念論を代表する哲学者シェリング。超越論的観念論や自然哲学などで名高いその思想は、近年世界的な再評価が高まっている。シェリングを政治哲学として読み解き、全体像の転換を図る画期的作。ISBN:978-4-409-03137-7



日高六郎の戦後啓蒙

―社会心理学と教育運動の思想史―

宮下祥子著
四六判上製 364 頁 定価 4,950 円

存在の大きさに比して顧みられることの少ない日高の学問と思想を、社会心理学と教育運動の面から丹念に考察する。戦後リベラルの知的遺産を検証するとともに、「戦後」という時代そのものを相対化する力作。ISBN:978-4-409-24171-4



普通の組織

―ホロコストの社会学―

シュテファン・キュール著 田野大輔訳
四六判上製 440 頁 定価 6,600 円

ナチ体制下で普通の人のびとがユダヤ人の大量虐殺に進んで参加したのはなぜか。殺戮部隊を駆り立てた様々な要因を組織社会学の視点から解明した、ホロコスト研究の金字塔。
ISBN:978-4-409-24169-1

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覧

●北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北 9 条西 8 丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

●弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町 1 番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

●東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

●流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市平畑 120
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

●聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬 550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

●慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田 2-19-30
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

●専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町 3-10-3
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

●玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園 6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

●中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野 742-1
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

●東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場 4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

●東京電機大学出版局

〒120-8551 足立区千住旭町 5 番
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

●法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北 3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

●武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町 1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

●武蔵野美術大学出版局

〒187-8505 小平市小川町 1-736
TEL 042-342-5515 FAX 042-342-9542

●早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田 1-9-12
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

●関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

●名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町 1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

●名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学内
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

●京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町 69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

●大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘 2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

●関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

●関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町 1-155
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

●九州大学出版会

〒819-0385 福岡市西区元岡 744
九州大学パブリック 4 号館 302 号室
TEL 092-836-8256 FAX 092-836-8236

●大阪経済法科大学出版部 (休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺 6-10
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

【発行所】

一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替 00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北 1 丁目 14 番 13 号
メゾン萬六 403 号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail : mail@ajup-net.com
URL : <https://www.ajup-net.com/>

【表紙デザイン】 奥定泰之

【表紙写真】

ロンドン・ブックフェアの会場風景 (2024 年)
【写真撮影 高橋学】



* 本誌のバックナンバーは、大学出版部協会の公式 HP でも、PDF 版を全文無料でダウンロードできます

大学出版 142 号 (2025 年春)

2025 年 5 月 7 日発行
頒価 100 円 (千共)